

南区真駒内地域における  
『新しい学校になったことについてのアンケート調査』  
の結果について

～学校規模適正化の効果検証～

平成 25 年 10 月

札幌市教育委員会

## 調査の概要

### 1 背景

札幌市では、少子化の影響等により、学校が小規模化し、クラス替えができない、望ましい教育効果が得られないといった問題が生じることがあることから、子どもたちの良好な教育環境を確保するため、平成19年12月に「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」及び「同地域選定プラン〔第1次〕」を策定し、南区真駒内地域を含む市内3地域において、学校規模の適正化に関する取組を進めてきた。本調査は、そのうちの1地域である南区真駒内地域を対象に実施したものである。

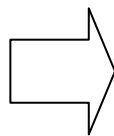
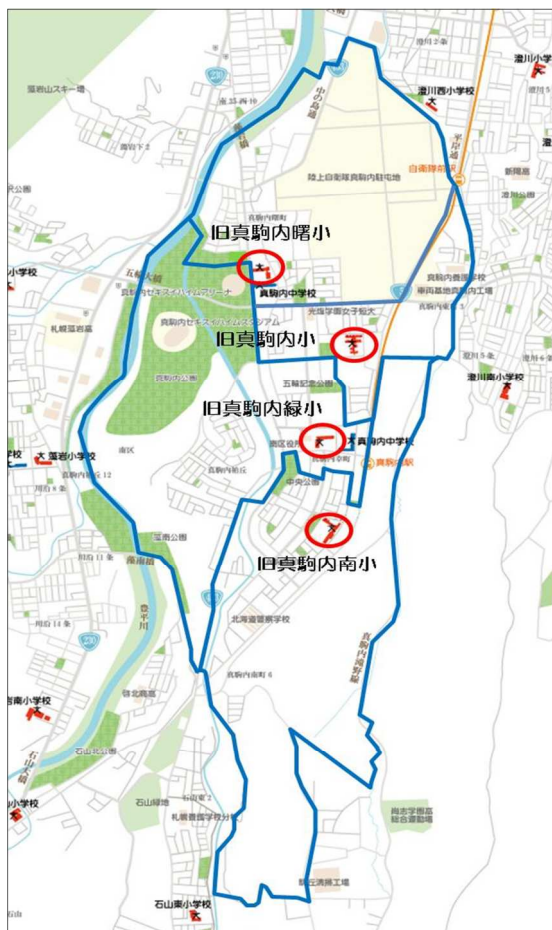
南区真駒内地域では、保護者や地域の方々、学校関係者等からなる「小規模校検討委員会」等を立ち上げ、平成20年7月から統合校の位置や通学区域、統合校の開校時期、学校名、通学安全等、学校規模適正化を行ううえでの諸課題について検討していただいた。

札幌市教育委員会では、この検討結果を最大限尊重し、平成24年3月末に「真駒内小学校」、「真駒内南小学校」、「真駒内曙小学校」、「真駒内緑小学校」を閉校、同年4月に統合校である「真駒内公園小学校（真駒内曙小学校の校舎を活用）」及び「真駒内桜山小学校（真駒内南小学校の校舎を活用）」を開校したものである。

【参考】南区真駒内地域の通学区域等について

- 真駒内公園小学校：旧真駒内小学校及び旧真駒内曙小学校の通学区域を統合。校舎は旧真駒内曙小学校を活用。
- 真駒内桜山小学校：旧真駒内南小学校及び旧真駒内緑小学校の通学区域を統合。校舎は旧真駒内南小学校の校舎を活用。

【統合前（～H24.3.31）】



【統合後（H24.4.1～）】



## 2 目的

南区真駒内地域において、学校統合から約1年が経過したことから、統合に伴う児童の様子の変化等について、児童及びその保護者の方々を対象にアンケート調査を行うことにより把握し、学校規模適正化による効果検証を行うとともに、今後の学校統合を検討する際の参考とすることを目的とする。

また、真駒内公園小学校及び真駒内桜山小学校に勤務する教員を対象に、教員の負担や自由意見に関する調査も行ったため、参考として掲載する。

## 3 対象

- (1) 真駒内公園小学校及び真駒内桜山小学校に在籍する2年生から6年生までの児童
- (2) (1)の保護者
- (3) 真駒内公園小学校及び真駒内桜山小学校に勤務している教員（参考）

## 4 実施方法

学校を通じて調査票を配布・回収

## 5 調査票

「参考資料（使用した調査票）」のとおりに

## 6 調査時期

平成25年3月

## 7 回収数等

児童分：954枚（回収率：97.1%）  
保護者分：920枚（回収率：93.7%）  
教員分：40枚（回収率：57.1%）

## 8 集計

- 本調査では、前段で、児童が学校統合以前に通学していた学校（出身学校）及び現在の学年について回答していただいている。
- 本調査の目的は、学校規模適正化による効果検証であることから、出身学校及び学年について以下のとおり集計を行った。
  - ・出身学校を、「真駒内小学校」・「真駒内南小学校」・「真駒内曙小学校」・「真駒内南小学校」と選択した回答を『真駒内4校出身』として集計を行い、「その他」を選択又は無回答だったものについては、表中に『その他の学校出身』又は『出身学校不明』として、回答数のみ記載している。
  - ・学校統合に伴っては、以前と異なる校舎に通学する児童と、同じ校舎に通学する児童が存在していることから、『真駒内4校出身』の回答を、さらに『真駒内小・真駒内緑小出身』（異なる校舎へ通学する児童）及び『真駒内南小・真駒内曙小出身』（同じ校舎へ通学児童）に分類して集計を行った。また、学年の違いによる傾向についても把握できるよう、『真駒内4校出身』の回答を、学年別（2～6年生）に集計したグラフも掲載している。
- 各問で無回答のものはごく少数のため、グラフへの記載は行っていない。
- グラフの割合については、小数点第二位で四捨五入をしているため、合計が100%となっていない場合がある。